

皆様、こんにちは。

府中教会、アンドレアです。

本日、この主日の福音には、五つのパンと二匹の魚を分かち合う出来事が記されています。この出来事のうちに、私たちは三つの宝を見いだすことができます。

第一の宝は深いあわれみです。イエスが感じたのは単なるあわれみ以上のものです。それは共に苦しむこと、すなわち、他者の苦しみを自分も負うところまで共有することです。イエスはそのようなかたです。イエスはわたしたちの所で、わたしたちと共に、わたしたちのために苦しんでくださいます。そして、このあわれみの表れが、イエスによって行われた数々のいやしです。

第二の宝は分かち合いです。疲れて空腹になった群衆に対する弟子たちの行動とイエスの行動を比較することは意味深いことです。弟子たちは群衆が自分で食べ物を取りに行けるようにするために解散したらよいと思っていました。一方、イエスは「あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい」と言います。もし群衆を解散させていたら、多くの人々が食べられずにいたことでしょう。そうではなく、わずかなパンと魚が分かち合われ、神によって祝福されて、皆に十分、行き渡ったのです。それは慈しみ深い父なる神を信じるよう招くしるしだと思います。兄弟姉妹と分かち合うことができるなら、御父は必ず「日ごとの糧」を与えてくださいます。

そして第三の宝は、パンの分かち合いは感謝の祭儀を予告しているということです。このことは、イエスがパンを裂いてお与えになる前に「賛美の祈りを唱え」たことから分かります。私たちは、イエスのこの思い、すなわち深いあわれみと分かち合いの心をもってミサにあずからなければなりません。さらに、困窮している人々と共に苦しむことも分かち合うこともなく、ごミサにあずかっても、イエスには出会えないと思います。

